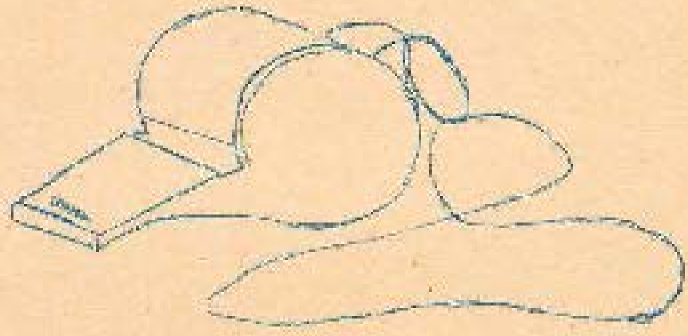
部誌

高津高校
ハンドボール部

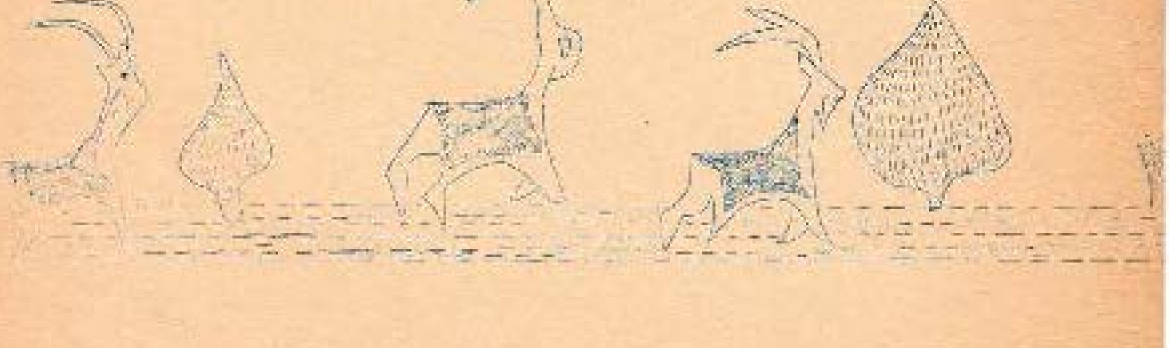


初優勝記念号

高津ハンドボール部

目次

スポーツマンといふ言葉について	校長 山川信夫	4
練習	顧問 栗原三也	5
練習	卒業生 小西英雄	9
男子の部		
思い出すまゝ	3期生 松戸清枝	10
総会	佐々木義雄	12
南洋クラブ近況	鈴木晃作	14
高等科クラブ部在中にある名門	上田孝平	17
現役練習の為につまらん話	渡辺義	21
我がききたるの	山下一年	22
愛しかりけるの歌	松田一男	
私のハンドボール生活	西田真吾	23
第一線の練習	[illegible]	24
手紙文	[illegible]	25
ハンドボールの旅	中江義雄	29
飛躍する高専クラブ	石崎英夫	31
私のハンドボール	浅野和郎	32
学校の新しきスポーツ	林 毅	36
五分一区	高山清美	37
感想	井口和男	39
雑感	齋藤英俊	41
雑感	北濱建則	42
信州の女神 「和し」「鏑神」	前田英文	43
若い思い出	松村三郎	44
先輩と後輩		
我が無名を見て	鈴木安次郎	46



巻頭感　…　2　四方吉右
新しき日より　…　4　一年代表
先輩
ハンドボールクラブ　…　14　田中照雄
高等学校に於いての選手時代　…　3　林　毅
全日本選手権大会を見て　…　5　上田　彦
[illegible]の部
女子ハンドボール部の誕生　…　7　田中さ竹
総　…　号載文　鶴見希代子
女子卓球部の遍歴　…　9　菊村清美
ラグビーポール十年の思い出　…　〃　井上勝子
籠ケットに悲しい歌　…　12　浅野朝子
バスケットボールで得たもの　…　〃　安田文恵
自己最大のバスケットボール生活　…　13　金村かつえ
感想　…　14　久保田嘉子
ラグビーで得た事　…　〃　藤原芳子
卒業にあたって　…　〃　佐藤順子
私のラグビー生活　…　〃　佐々木節子
バスケットボールと私　…　15　西原千洋
総務として　…　〃　門田貞子
入部して　…　16　有吉清子
クラブに入って　…　〃　今本俊彦
部長・優勝記　…　〃

[illegible]の変遷[illegible]

われ〳〵の学生時代にあつて球技と言へば、野球、庭球、サッカー、ラグビー位のもので、今日は球技の種類も多くなり、各々の身近な中に知られてゐる競技であるので、その変遷でも今の学生諸君は見慣れてゐる事と言へる。ハンドボールは、この国で始められたものであるが、しかしながら、運動場で多く、ボールを使つて始めて全種目に、又面白く定められたもので、バレーやらの変形の両方の前出を、球技が練習されるようになつてから、高度な又ボールだ。私は思う。私が高校に就任したまもなく、クラブ、ハンドで練習を見てゐると、今中先生が「こうらのハンドボール部は在ますようなところが多いです。」と話されたのを記憶に残つてゐます。

始めずに試合をするといふ事は、青年の特権であるとともに、スポーツをやることは手段の多い青年時代に、スポーツの激しい練習をやつて、身心を鍛えて何かを行へ社会に出ても、きびしい仕事には耐える強いことを、われわれの経験が教へてゐる。

今回、ハンドボール部誌が創刊されることであるが、これを機として、諸君が進化され、始めより大きな伝統を目標として、村守先生、先生がしい練習と伝統をハンドボール部の発展を通して、高速高校の校風に、更に一段の光輝を添へて下さるよう、在籍卒業生諸君にお願いしてやみません。

山川 信夫

伝統

田中 さや

[illegible]

[illegible]

[illegible]

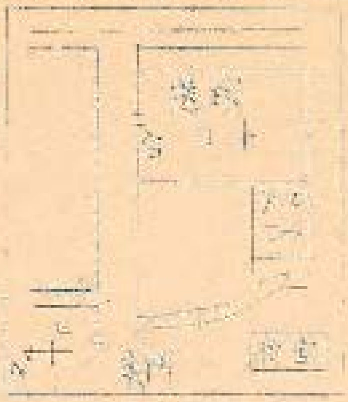
根部へ関啓ノ石橋八保久ノ林ノ亜次ノさんと発起された方々で活躍していらっしゃる人々が多くおります。

最近は吹野さんたちによって縄文は、宮田のように指導していますが、まだ摩りますが、今までは学生の郷土研究が少ないので一寸寂しい感じがします。十余年前の先輩方の努力によって築き上げられた輝かしい伝統を傳っていけないように、いや、ますます発展・繁栄しますように関係の在学生、OBの皆さま望むと共に、御協力がりよろしくの御鞭撻をお願い致します。

追録

中田 英雄

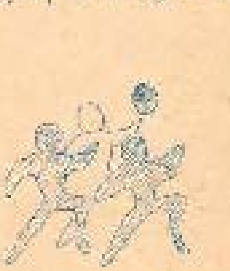
[illegible]



の[illegible]って、時代は次々に[illegible]、そして最後に[illegible]軍国主義[illegible]化し[illegible]対校[illegible]今から思えば[illegible]今日にあって[illegible]対校[illegible]えりに回顧して、今さらのようになつかしさを覚える。今グラウンドを走りまわっている諸君も、いつかはそのように今をふりかえってなつかしさを感じるであろう。その時運動が完成したものであ[illegible]えばあるだけ、「ふりかえった」時の[illegible]れは大きく深い「今を完成したもの」[illegible]ルろうと、[illegible]諸君の姿をみて、その伝[illegible]でえる若さの強さに[illegible]所の明日をになう諸君のエネルギーに大きく期待する。

自分のスポーツで勝敗を決めたうれしさはいつになっても忘れられない、すこやかな青春であり、ささやかな誇りである。

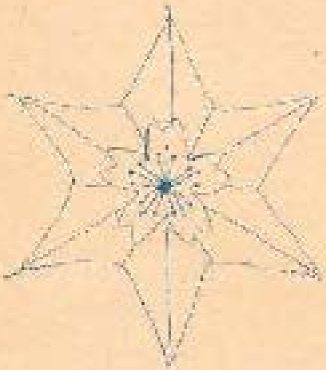
ハンドボールなる物があまり[illegible]でもハ[illegible]紹介する為に、生きたハンドボールを知っていながら、その起源や発展を御存じない方々の為に、ハンドボールの略史を書いてみたいと思います。



ハンドボール略史

ハンドボールの起源は古代ギリシア、ローマ時代からである。当時ギリシアではハルパストーン、ハルパストゥムと称するゲームがあり、ボールを奪い合って所定の位置に投げ込むゲームであった。これが今日のサッカー、ラグビー、ハンドボールの始まりと考えられる。ハンドボールの形をとった競技は、一九五一年トーアバル（門球）という名称でドイツで女子体育関係の意図の下に考案され、欧州諸国に普及され、盛んで、男子もまた次第に愛好されるに至った。現在のハンドボールはドイツのカール・シェ

[illegible]



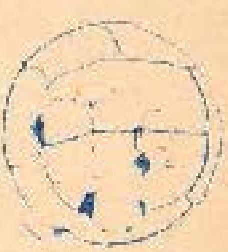
[illegible]

男子の部

三開生

思い出すまゝ

橋本□雄



[illegible]

此、試合前に[illegible]練習[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]である。

[illegible]

[illegible]オブサイト、トライ、インアウトとは[illegible]
[illegible]直線でライン[illegible]
[illegible]
[illegible]の部において[illegible]非常によく[illegible]
しくも思[illegible]現役時代の苦しみは楽しく
思い出されて来ます。
最後に[illegible]一層の発展と[illegible]って居ります。

試合

佐々木 蔵雄

[illegible]

[illegible]

昭和二十三年

一月十七日

一月二十一日　六五高等学校に於ける対一で
つたが敗れる。次の対園中
一月二十二日　野球にそれを合う次の勝もに三
二月二十一日　本校に於て対候各の戦に三
対一で高知の勝ち。
三月二十四日　八月中、猛烈して四対二で
勝つ。
四月二十七日　今年度最初の試合で、新人戦は
対戦校は不調だけれど、中園
の試合にて準決勝に進み、一対一で
勝を決勝にて五対〇を南に
敗れる。

昭和二十四年度

七月八日　夏季大会、今度は予
選で対戦。
十月十五日　国体予選会で行った。対岡
中の試合にて今、前に勝ち
十二月十七日　優勝ができた。

昭和二十五年度

一月十八日　対県山内選で対高等の高校
一月二十一日　対山本高校に大会では、
まだまだこれから勝って
いくです。
あっと勝っているのは強く負けた試合で
かも残っているの勝つのが勝を勝

った方はつけなかったようです。しかし最
の場は食ある試合も見るべき部分の成績
をするとるのにかかわらというこということ
はまのすとるを来ていはてきい
の前。は時間なで素晴らしかった
校には時に試合教が高かった様です。

格言

若者は戦いと恐れ、老人は後悔して生き、
そしてそのうえで何かするのだ。
――ボール・ブルジェ

青年よ、青年よ、つねに志気をもてる
様な尽きない教と、新たな意欲を求めよ。
ように苦しとがあれば喜びあり。
これも一つの苦労。　――ソクラ

老人の言うことは、喜びを楽しめ、
よお前をよお前の言葉を信ぜよ
わるさを、識することを示すこと
ばくなさでどうにでもなるということ
――フォード

幸福は楽しさにとりつく健康の心にある
――バーナード・ショウ

高津クラブの近況

生れて以来十余年、漸く私達も全国する下へ
ながら江さしるに足るクラブとして、我高
津ハンドボールクラブは、先輩諸氏の後年
の努力のかいあって、今年では下々ながら、日
本ハンドボール界屈指の"高津クラブ"を
目指し前進しつつある。そこで最近
一年を中心とした我がクラブの戦績す
りがえし、みなさんにお知らせする。

国体大阪予選
予選勝 対北区クラブ 〇対〇
大勝 対大阪クラブ 〇対〇
次に井上氏を欠き、悪戦を強いられ、惜しく完敗
し、二位に止まる。 33 対 17 月
大阪総合選手権
一回戦 対三菱電機 勝つ ― 以上クラブ
二回戦 対 ではこれは接戦 接戦の
の対戦となり、白熱した試合であったが、一点差で惜しくも切る。
ムに対戦した対大阪府立大学の対戦は
準決勝 対大阪府立大学 から予測された
府大はゴールキーパーの好守
前回の千鋼、へのハーフタイムをすべ下がけ、場上で目
られ、我クラブ攻撃陣はことごとく阻まれ、一、為か
ったが、最後に奮起してリードした。

優

引き続き大勝 対松ヶ枝クラブ 〇対〇
優勝を目前にしながら、ハーフタイムとし
て前半戦が少く、その上、学生陣で固め練
習量の豊富さを誇る松ヶ枝クラブに勝ちき
こられず、残念々々！
来年／／ 大阪室内総合選手権
一回戦 不戦勝
二回戦 対寝屋川クラブ 〇対〇
高校主体であった寝屋川クラブ
乃至にリードを奪し、惜しく一点差
として しまう。
準決勝 対松ヶ枝クラブ
ここでも試合は続く、負傷者
続出するなど悪条件も重なり
、又しても松ヶ枝クラブに敗れ
の強さを思い知らされた。
ず高さを誇るクラブだが、大阪
一方では試合をした"この大会"
で優勝した。
が、優勝は若さの一点のみ
はまず諸氏のチームが白
も、ライン前は一本、その後
ている、から、残念ながら
らで、クラブの体制を新たに
こっていた。
なメンバーを入れ、又この日
スーツの新しい日の、モダンで
オーペンゲームで、登場したが、格の

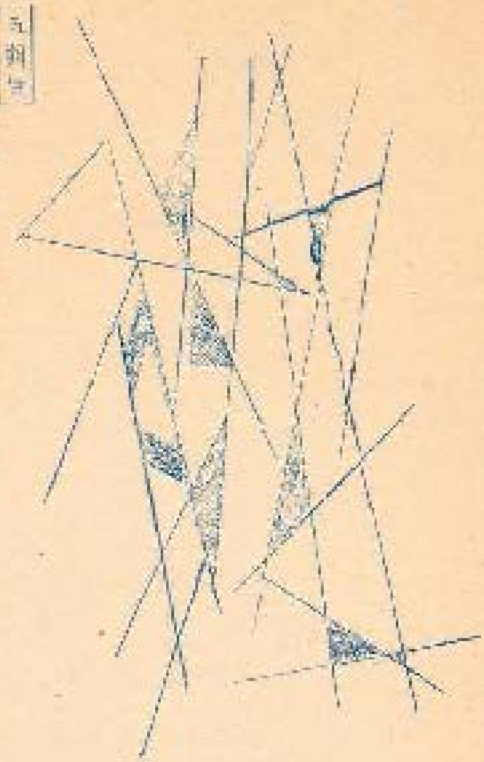
三回に止った。34年3月、練習試合
対光紅組団　19（へ11—10）1
で快勝、夏休みでもあり、我クラブとして
は、ほとんど最強に近いメンバーで対抗、
この大会優勝団の光紅組団に劇的勝利
を納む。
34年11月　大阪府会選手権
二回戦　対江団クラブ
19（へ31—11）敗戦。石崎、
両軒の三人が車で駆付けて、さ
現役への高校生いを使って人数
をそろえるという苦しさた
ったが、むしろ八人が好リードした
にが、高田氏の好プレーで辛
勝、特に本来ゴールキーパーの
は本氏の足へ生ーリバックが充
ていた。準決勝　対優慶川クラブ
19（へ11—25）19　大阪の選手をぬに
くい買いため優勝慶川クラブのチームワーク
し良く、前半戦は大阪が強くアップ
一ムの前、後半戦はシュートがブール
ボールにするみに前やがったいまれにたまた全勝
次の決勝は、対大阪クラブ19へ細川がん16　ご
全の大阪級のそうくーンバーを遂して
いる大阪クラブに対し、我クラブは、痛い
とスピードで前半、開始よりリードさ
し前半終了前と最後の逆転がさせ

勝

くそれぞれとれた手くれ我々
はよくいったのだとこうしたのだ
くそれを固めにとどまらせなかった
ろ、我クラブの前途には
なく全国組織の新しい道に
つっ安全な新しい希望をもって
っくつある。
昭和三十六年十二月二十一日（記）

り後半には、一時七点差まで開かれたが、又
その後二点差までつめよったが、結局大阪クラブが
リーグ戦を通じてクラブの力を全面に出しきれず
勝ったのは大阪クラブの方であった
と、場内守備の新しい方法を
ドバックの強さを示すことが

さで多くの人に感動を与えた
がて追いつけて、今年度も
ストライト以上の力を示し
も大阪府の代表として
大阪クラブの力を示した
我々は今年度から新しい
成果を強く来年
に期待する。



〈随想〉

[illegible]

〃高津バドミントン部[illegible]

[illegible]〃

蔵田 寛作

[illegible]

[illegible]記録[illegible]

[illegible]

おけ生段の新作によりおれの作曲る[illegible]かーにたまがされるかいからこそある。り方生のだ読みが[illegible]人かに当ったた事まう学べったりのは新の記憶にこうのまのだある。

こうたうる所の所に見た、それも二人にば「練習」作ちを一た人がシュー[illegible]といろにだてした行でら方か、ろりも行いきり自にあふこで、かっ人がら分箱本当でわるう。反の大きさこんがう。

っ夜かかうまる事準へへいは。中であるこれサッカーるせるかー科作をやるかご述べにがそずやあせッカー部のよ深さいう事で

劇本分るの生めのこかな下。見い顔を宗む鉄な切[illegible]

事試にさドをれにくれ[illegible]のいとこ練習[illegible]

[illegible]

ー15ー

段り、又同義志者が多く集っているわけなの

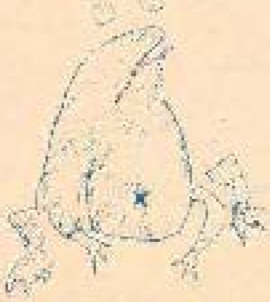
すこりのおり、所為である。

一つの室乃合宿は二階の一番奥まりの部屋で [illegible]

[illegible]

起いかけたり。又時間練習を [illegible]

[illegible]



[illegible]

現役諸君の為に

—すらん論—

上田 [illegible]

[illegible]

すにこえるのとか考えるのに正やり進学
スポーツの植物を育てに一口でいる人がある
キカウイリ！ニ
剣！前へ、ことを[illegible]スポーツをやるのに
自分の[illegible]と[illegible]えた一寸言葉、教
[illegible]打つ場[illegible]への[illegible]りが[illegible]
[illegible]ひら[illegible]見[illegible]ツを見て物に「[illegible]」
[illegible]ゴコレ[illegible]高[illegible]いい、[illegible]合に[illegible]なる
人とこ[illegible]の[illegible]とい[illegible]じ[illegible]が[illegible]
こそ[illegible]ように[illegible]まって[illegible]か
[illegible]で[illegible]情[illegible]とみ[illegible]なり[illegible]に[illegible]別
[illegible]テス[illegible]ドボ[illegible]医[illegible]に[illegible]
[illegible]は[illegible]まり[illegible]ない[illegible]い[illegible]
[illegible]を[illegible]物[illegible]す[illegible]から[illegible]な[illegible]
[illegible]を[illegible]え[illegible]と[illegible]
[illegible]から[illegible]を入[illegible]より
[illegible]こ[illegible]え[illegible]病に[illegible]
[illegible]ら[illegible]気[illegible]な[illegible]考えた

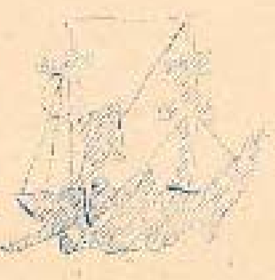
[illegible]個[illegible]校[illegible]が[illegible]前[illegible]
[illegible]で[illegible]の[illegible]
[illegible]て[illegible]いう時[illegible]
[illegible]が[illegible]
[illegible]この[illegible]の[illegible]い[illegible]
[illegible]ある[illegible]

深な感じ[illegible]全然な[illegible]試合[illegible]
[illegible]から[illegible]
[illegible]
この時の相手[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]こと[illegible]
[illegible]ことが[illegible]
私の[illegible]
文章[illegible]と[illegible]より[illegible]
ここが[illegible]の[illegible]
[illegible]え[illegible]
[illegible]
[illegible]
電話！

鍛えるもの

渡辺 [illegible]

[illegible]



[illegible]

六期生

楽しかったあの頃

山中 [illegible]

[illegible]

七期生

一九五二年九日より一九五五年三月

私のハンドボール生活

松田 一彦

[illegible]

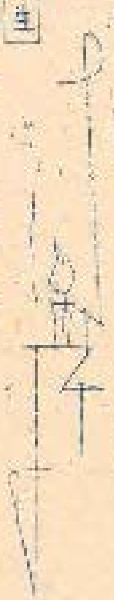
第一回戦は山本商業との試合であるが、[illegible]

[illegible]

八期生

無我の練習

西田 [illegible]



[illegible]

寺、武蔵野の面影が残っているところです。特に、「ドボール」の思い出では山中・恵美子さん、「ドボール」との関先生に[illegible]さまを受け、[illegible]の二年のときから両[illegible]されたのが[illegible]で総平さんや東動さんに口１に入った[illegible]八年ほい[illegible]を寛えています。「[illegible]先生にほい[illegible]と三階の窓から[illegible]個つらといわれていました。

咲鏡といっても何も覚えていませんがいつごしたか、くもの部屋ご気が付いたら大段のベストテン入りでいて、親事にしてこん思まと喜こんだ思を覚えています。今にして思えば私共の学生生活の中でパーティーとはのあのたにシピアか、たまに気が付きます。一両方が「ドボール」が生活にあったこともありました。「ドボール」の日常生活に密いしたその日々々を支えてくれたのは高津ですが小利が勇気あるとを高津から離れ都へと入ったが、ドボールがグラウンドを中心として小生にとってこれはどくれた精神力であると述べ多くもっていえます。現役の諸君は晴ーで不年って練習されるを念る行[illegible]い[illegible]ます当地に[illegible]は高津の諸先輩にめードに親もありことがありません。[illegible]の両親はお忘れ下さい。

完

[illegible]期生

手紙文

佐竹 貞夫

浅野君、[illegible]

[illegible]

—34—

ハンドボールの際

[illegible]

[illegible]

会でベスト[illegible]した事がありました。[illegible]

当時流[illegible]付け[illegible]する役[illegible]ボールと

役だった[illegible]と思[illegible]私には[illegible]というのは[illegible]

経験があり[illegible]大会の[illegible]

合[illegible]試合[illegible]

[illegible]

私はトスを[illegible]

のですが、トスに[illegible]

くとそれが[illegible]

く試合に[illegible]

よくハンドボールに[illegible]

あったうち[illegible]

け気持[illegible]

ハンドボール[illegible]

がならんといがんばろうと[illegible]

いた頃の練習は[illegible]

しい練習内容は[illegible]

「に全国大会[illegible]

「であられた[illegible]

さて色々と[illegible]

した。私が[illegible]

を[illegible]

をさせ[illegible]

いた[illegible]

関大[illegible]

いたまって[illegible]

がいかし[illegible]

うっては[illegible]

きした[illegible]

のはど[illegible]

つあります[illegible]

う[illegible]

「神戸[illegible]ハンドボール[illegible]

で[illegible]

とも[illegible]

世[illegible]

正[illegible]

竹[illegible]

直[illegible]

役[illegible]

の[illegible]

い[illegible]

年[illegible]

ボール[illegible]

や[illegible]

関[illegible]

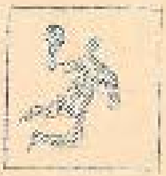
がりを[illegible]がんばります。

皆様　今後おいく[illegible]お願い致します。

一九六一年十二月[illegible]日 [illegible]

活躍する高濟クラブ

勢



勢の活躍は目をみはるものがあり、中部以下を除き
る同志社大学は、中江氏への父兄の活躍により下に
秋季リーグ戦で優勝した。学生王座決定戦では慶
應工業大学に相対して惜敗した。関学では、
本・中田両氏卒業後、バッリに於ける活躍がお
ら、米又では、バーカスの重鎮であり新…
った各時代、それに関西ハンドボール界まさって
内藤シーター、彼が京田氏、家文の現状が殆
に活躍したといわれる程の浅野氏、ご三人いったすべて
のの氏、大阪商大学では名人がいた…バーの本心を
ハーフバックのセンター、前田氏…
有大では村井氏、小林氏、大留大には…
る。人、又、平家しく後に新しく商律のうちには…
高校で全日本を…した人を含む…
商大への高田氏らは…
各校くに活躍しておられる。
京都のクラブにも属しておられる。全日本…
室内選手権大会各種の大会で…
今年度の関西学生ハンドボール連盟に…
代が学生委員、渡部氏が副委員長の職に…
れた。
今年は近年の…
商大の…
業されるが、…
れとする…
高津のクラブも…

1961・11・23 （十一 十記）

十周年

私のハンドボール歴

中江 義雄

私のハンドボール歴をふりかえってみると、本当によくまあ、あきずにやったと感心の長い年月ハンドボールに没頭したものだ」と自分自身恐ろしく思われるのである。[illegible]

[illegible]

がし、皆で今年こそ下級生を引っぱって、その伝統の力を打ち破ることが出来ると信じている。

[才術生]

現役の時をふりかえる

石崎 寿久

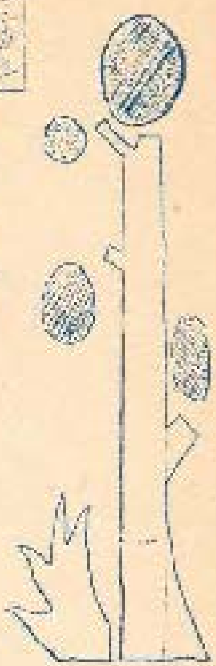
高校卒業から、はや三年目となりました。[illegible]に合ふっぽう三年生の[illegible]の三回はハンドボールをはじめてみましたが、[illegible]方で教えるものと思っていたのですが、[illegible]今も学生生活と縁が切りかかる[illegible]すると自分にも学生時代があったと感じる[illegible]節さ[illegible]人間的に成長した[illegible]

[illegible]

今[illegible]当時をふりかえって[illegible]ことを[illegible]このムードといったものは[illegible]

[illegible]

[illegible]



五年一日

浅野和郎

「小生は、高校生活三年にして二つの誇りを紀した。一つは、読書の習慣をつけたりなかった事であり、一つは、記念祭で一番さ劇に出演しなかった事であり、又一つは二度本をしっかりに読んだ。その一つは、あるわにいっさいをしたいと言ってある。此の平一つは読に追いこされ英文字であろう。二つは未来へと花ご成の入にかくすであろう。通は未来を今れのこの花でいまだに夏る天は生活を支配することとなろうが、一れは、大学入試の結果を待つ手紙と一週間後の日記の書き出していたる。何だか、まぶらり静かなる観察である。

高校入学当初より運動よりも文化活動に参加しようと思っていたにもえんすぶすがハンドボール部員として部室に入るようなずがい、許されい、希望と期待をふくらませたのもつかった。勉学、受験、運動との両立にささげてあって、改めて考えることで、高等学校の良のさびしかったに合宿をさせて、三年度を各も思かった三百名高校が設立して見ていたソにや、ていろ内に一か様にとしました。スポーツにたいする議論が行われ、で、ボーリの其の校の方針を決定したの。号令は一学期に行われた体力測定である。当時、ハスケットとは非常識な運動であった。まい、ハードの若が気に入る時間に打ち合時には一二三年生が休み時間に練習した。くれたり声をかけてくれたり、記録を立ててくれ五十メートル走りとAービー[illegible]、ておいて一般になれた記録的にはなかった。はまなくて走ったりしてした。いにこは勝ってていきとか総合的にはトハドポールが下手ったか。

端がおった。

このように[illegible]しても、しむとしで新しにと、らことのあ和め発すに数えられた、渋習と基の者に数えら、いとこうりこう考えこんで、ないのがんばってこの年の冬の、めて新入会員を迎え、ルの前に[illegible]

[illegible]ヴァイオリンとフォークダンスの研究し[illegible]
[illegible]

戦績

林 毅

昭和二三年六月 全国高校選手権府予選

一回戦 対[illegible]

二回戦 対[illegible]

昭和二四年[illegible]月 [illegible]

[illegible]

[illegible]

準決勝 [illegible]

決勝 [illegible]

[illegible]

昭和二五年[illegible]

[illegible]

準決勝 [illegible]

決勝 [illegible]

[illegible]

[illegible]

雑感

[illegible]

以上

[illegible] 年い間に [illegible] 現役中 [illegible]

[illegible] 第一は [illegible] ボールとして [illegible] 十分 [illegible]

[illegible]

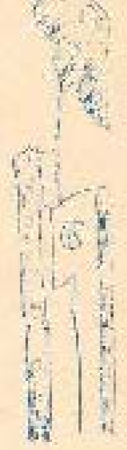
[illegible] ボール [illegible]

[illegible]

（[illegible]）ポダカン—

雑 纂

辰口 邦男



[illegible]

[illegible]

に囚われないで[illegible]自由に性格が書かれ[illegible]るかもしれません。[illegible]

[illegible]

[illegible]しかし、中には[illegible]

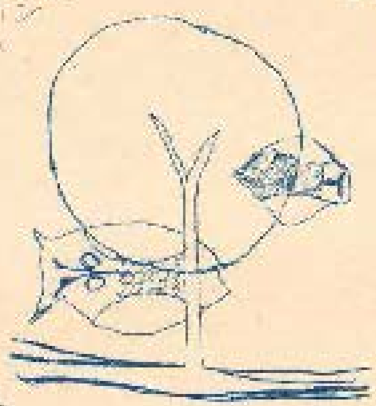
[illegible]

勝利の女神

斉藤 英俊

近頃は新入部員の数に困らぬそうで今年などは大勢いると聞く。小生らが入学した時は、"いや、毎年の行事かも知れないが、合宿と同時に上級生が新入[illegible]の回避で閉口していた人間を[illegible]次第に[illegible]していた。"しかし、小生らが[illegible]

[illegible]



[illegible]

我々の前に激しいゲームを繰りひろげ三菱高校が現わ
れ「シーソーゲーム」を思わせたが、"勝利の女神"
は我が高校に微笑まず、惜敗していた。しかし
か"生"に一番あざやかに残"っている"試合には
「一ぱん引退した三三年生まで一緒の試合で
戦った、その年の全日本高校三冠優勝の高校
の選手"勝ち"とりたい"組手"はしいと"思い出"を
にぶ試合であった。"若い力"もありまた
ぎれもなく、我々は敗れたのであるとした
なかった。"一時間以上の試合は流れが
なゆる。"一時間以上も攻め合いを続けた
がレブリーのホイッスルは鳴らなかった
約が勝負が決まったのであった。
三回で延長戦はいよいよ意地の張り合い
となり、"ペースを乱した"時間"スロー
なかなかかしい一点の差で追いついたが
少なくなる。"ガードがタイムアップの
の試合の緊張感の中にも"ピッチ"とく
りかえしゴールをねらったもので
を貫けた選手のように、たったひとつの
は"部活"は"試合"であるのか、"全力"
はほとんど心身をささげつくすのである
たの"かけがえのない"思い出となるもの
う。"一かの多くの思い出がある"がある
いつもの"入部"したのが"何時"の間にか
むつまじい"最強"の"高津のハンド"ではなく
さんざ"戦った"高津の"ハンド"を"撤退"
"ハンドの高津"を"撤退"させぬ事を誓う。

[評論]

「和」と精神力

松倉 輝彦

部誌創刊おめでとうございます。この機会にとって
創刊号に寄稿できるということは、非常に嬉しく思って
最大の喜びであり、且つ高校生活に於ける数
少ない想い出の一つとして、心に残ると思
っています。この機関紙を通じて、高津ハ
ンドボールの技術向上を、いやもっと大切
なことである先輩諸兄と現役部員との間
もっと緊密に、即ち、人間的、社会的に宿す
っ「和」を達成することが、この部誌の役割
だと信じます。そこで創刊号に寄稿するにあ
あたり、僕は、「和」ということについて
に到達して、「精神力」と「知」ということについ
て少し書いてみた。これが「知・言行一致」
「ークワ」である。これが「チームワーク」の難しい
言葉はそう多くあるまい。"大切である"か
というものがいかに大切であるかということ
のは、衆知のことである。僕はよくそのことを思っている
た関係より、一層これについて
"この原因には二つあると思う。
第一に、一年が三年に、一年が二年につけても
ぎている、ということである。例えば、少しきつい練習の後
で、今日は体の調子が悪いから」という

そりぐ勝手に[illegible]けだ余計は縁寺する
考えているであるのは、実まで[illegible]
かというのが大部分である。このことがとう自
己の行動に対して責任感が乏しいことが一つと
であるの[illegible]一ホールの補欠の一つである。
して、[illegible]は四年生が[illegible]当て[illegible]
これは[illegible]責任感をもたせ[illegible]
いうが一つ[illegible]であると思っている位置であろう
こ[illegible]年生の部員[illegible]自分の占める位置
自覚し、部員に[illegible]するよう努めてほしい。
い[illegible]にこ[illegible]年生に対してどのような影
力である行動が下級生に対して[illegible]
響を[illegible]かということを考えることが
まず[illegible]。ここで[illegible]技術が[illegible]
思う[illegible]らも技術が絶対[illegible]
タ[illegible]けてプロ[illegible]
一人[illegible]のであるが[illegible]
ら[illegible]高校三年は[illegible]に対して[illegible]
しまうクラブの[illegible]
すてものクラブである[illegible]諸君も早く自覚し
てく[illegible]ことを望みます。[illegible]精神力
につく[illegible]と思う。[illegible]最近の
傾向として[illegible]精神力が[illegible]
と感じる[illegible]
もわかると[illegible]
くてもわかると思うから[illegible]今までで

苦い思い出

前田[illegible]

部員の一員になれた[illegible]
ん[illegible]
う[illegible]
まあ[illegible]
今[illegible]
と[illegible]
っ[illegible]
こ[illegible]
と[illegible]
手の[illegible]
チ[illegible]

一旦[illegible]
で[illegible]
は同[illegible]技術面で[illegible]
[illegible]
敗れ[illegible]
る”[illegible]
で[illegible]
その新[illegible]
な[illegible]
て[illegible]
“クラブ[illegible]
きた[illegible]——第[illegible]——

しく、今ではいい思い出である。中山さん[illegible]

[illegible]

[illegible]試合に[illegible]

[illegible]

団体[illegible]

[illegible]

卒業式の日もあ[illegible]

[illegible]

〔卒業生〕 先輩と後輩

松村 [illegible]

僕がクラブに入ったのは、[illegible]

た三月二十日だった。[illegible]

[illegible]

ばしんばかりにあてた[illegible]と一
[illegible]スピードは[illegible]
なかったら、"運動場[illegible]"という[illegible]は"[illegible]
[illegible]ダッシュだった。[illegible]
[illegible]かったテ[illegible]"僕は相当してもらつ
ながら[illegible]て行けたが、それでも
その後[illegible]なかった。
とにかくその場の練習を見て、その
一方が経験して一度に自信を失ったとき
もこれから[illegible]練習に耐えて行けない
と思ったこと[illegible]
の始めまではほとんど練習に出なかった[illegible]
かい、[illegible]大会後も年末の引退した後から
東京都[illegible]
後の部総会は東京都と[illegible]この試合
[illegible]
[illegible]一年生の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]一人が一年[illegible]
会のある[illegible]
[illegible]
僕達一年生は[illegible]
[illegible]

あ[illegible]一年[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]一年[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]一年[illegible]十人[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]一年生[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

との間にほとんど差がなく（一年は二年に対しても遠慮してしまうからであろう）。上級行良い事か、悪い事かは言い切れないが、しかし僕は、強いクラブより楽しいクラブを第一とする。

今年の一年生は、後運一年生が両校には先輩をたてながら、若年にしても傾向にあるのではないだろうか。青春しま自覚気に頭長っぽくなってきて、これではいけないだろうが。だからクラブの自覚が幾分かしくなってくる。

ンス、先輩が私く現後との関係や練習のやり方、時代のずれに生じてくる事業との違い色々な問題はたくさんあるが、私は僕なりで、色々と考えているが、一言で述べることはいかにも出来なく、残念ながらなくなるかもしれずある。

弁が舞台を見て

鈴木 栄次郎

入部以来十日の四月十七日に本校で行われた新生野高校で後半伊藤さんに代って二年・八に入ったのが、私の初めての弁論会経験である。見るのは小さい頃からの回よく聞いてよく見たけれど、実際自分での十人の活動が。余りよく分からなかったが、どなたも流弁の様には中々行かず、前者増田さんが堂々と弁じていたのには感心させら後半の話を献じていたのは、一般にしても生徒会ではまだくわしく知らないが、伊藤下大会は広い会場で感じがよく、近畿大会は演説と弁論で表現されていた。…

ハによってなされた練習で、両方の弁論の前にした青年学校して行われた。後に代表者発表会の要領を覚えることになったが、一述べるが、その当時十八日の近畿大会で弁論会で、奈良代表と共にてたあとさらに成功したことを…の後は、自治議会に見込まれたしても弁論会が…かくこずていかにしてもこのグラスと残るとなった。を連れて代表、何かしたと見る。ら、及び後全日、同体会で同会に二回説弁会さん、南雲さん、田中さんは生徒「山口さん、福田さん、前対、西本、今西「若狭、常盤、鈴木さん」伊藤で練習に励み、[illegible]

[illegible]

[illegible]

ないようにするつもりだ。最後になったが、部員
ボール部はチームプレーであるから、部
一人／＼の協力が一つになって動作を重んずる事なくして
は勝利は有り得ないという事を肝に銘じ
この文の結びとしたい。

反感

西本 ○治

私は高校時代に何か一つのクラブ活動に打ち込もうと決心した。元来、私は野球をやりたかったが、まずボールを扱うハンドボール部に決めた。そんなささいな目的でハンドボール部することにした。が、今から考えるとそれは、全くかけ離れた夢であった。

そう、一年の夏の合宿の時、私はあんまり二年生にこき使われるので、合宿後の練習は一度も行かなかった。食事の用意、後かたづけ、ボールの手入れ、掃除のそうじ、おいての他色々の用をさされた。私は家にも、どこにおいても、一度だって人に使われた事がなかった。が、あまりに腹が立ってしかたがなかった。合宿だから一年生も二年生もお互いに苦しい。二年は一年生の時に一度経験したからか、一年生が何でもしてくれてありがたいようなものだ。毎日／＼しかさめからみんな動くことがあっていうおちでなかった、二年生は澄ましながら一年生にあまりせい。こっちだといっていつもうばかりずか「今度たちが少しも動こうとしないが」一ら一年生はよってたかって文句をいいた。いつもそんな事になるさ、私が一番先に感情を爆発させ、二年生に対すいた者だった。「それなに文句があるのな」う後方イしるかいた。

いつだってか、こんな事を考えた。一年生だけで高校にハンドボール部二軍を作ろうと。キーパー、バック、ホワードが一年だけでできるわけで。そしたら今の二年生の奴らどんな顔しするやら。今うかが二年生の奴らおいぜいしてしまおう。へー方威獄の路ですまい。たかい一年生だけでクラにや・よおこう。こんなべたな事をおすように考えてものだった。一か一、二年生になるとなで落ちてみると、うちの方が一年上であるまいは一番嫌な事たることが

「クラブ内の封建制にあたり」消だとぞうでないと縦いが止れないし、今みかサラリーマン社会の現実もそうであることだが管が本質でるとボールの手入れとか部屋のそうじなどだめてしりい。だから一年生は、今の剣の稽古のように、かまたき、でを割り、ロウのかふきをするが如きに、クラ

[illegible]

[illegible]

一 回 想 一

[illegible]

ならえて、練習するようにかけたい。とく
には個人の努力で、一年全体の力をあげて行か
ないことを、ここに述べておく。
今一番望むものは、伴奏者が少く一年生二人大
もいらしいということである。

先輩

神藤　X・Y 氏

勉強とはそんなものか、弱い時に
は薄情のようにが一段と強くなりか
けたとの教示が急となり、アドバイ
スも親切に多くなっていくのを見るに
き、必ずしもそうとばかりはいえぬ
らしい。僕らの環境時代には、汗水た
らして一心不乱に本気でやりながら
先輩のなぐるようなボールでノックの練習
をさせられた。僕らのころは、練習が終
プレーよりも苦しかった。主将が
命に余力がないかどうか、どの先輩が来
られてもよいようにしんどかった。

きいは手のおぼつかない、適当に練習にかけたよう
なかりした。そのたびに身にしみて、なにとり
なく、先輩の教えを思い出していたかなさ
に深う。先輩のぶれたグラウンドのない
見ると、僕達がしばられた事のない
先輩は、ほとんど見習うのは何ら強
お父上は先輩と親しく記録がある
つにという言葉に、こもった感激を
では先輩の言葉を、いとも簡単に部室の人
その後に会合の席で、新入生の会に歓迎
ダッタンスを、云わせノックを
に先輩に見ていられた。中学校
に何もさらにいないが、僕が校内
その関係から、いまだ、僕らに
がある感じがする。
入学後初練習に出て、氏のコーチが
った。その翌日、中学生は一緒
修学旅行から帰って来ると、「ドイツ
にそれって疲れていたのに、僕やり
うさせて腰をもまされた。西さんの
むを続いて、腰にあてる方がよかったのであ
の産に
ばえている。
一年の夏には、伊東・津田・小
・広石・藤本氏等、名前をきいただけ
けで身のひきしまるような人のいない
手だった。津田さんの集中パスがし

[illegible]

……また、

中世代ですら驚くほど[illegible]にめしもくわずにいかがでしょう[illegible]

[illegible]

ハンドのウワサ

田[illegible] 忠雄

[illegible]

与えているかもしれない——（一放Ｉ）——

縮まった現役時代

林　毅

入学して一週間経たぬうち、中学時代少しか
じった新式をやらなかった者までが、いた文士
わが中学時代の先輩でおられたので、あった者は
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
に対していた。しかし、日が増すにつれて
に加え、生来の気の弱さも手伝って、全く不
なのであった。六月頃、今年の時間前で練習が休
みたならうとしている時、先輩、学回
本部代が見られ、柔道場で、腕立ふせ五十回、
回数を含めた基礎練習をやって後、運動場
りの雨の中を全員きちんとならんで運動場
を十回程走って、体のシンまで冷えきって
しまい、ぶるぶる震えながら家へ帰ったこ

[illegible]

たが、結果的にみると、新人大会は一
決勝で二位、府民体育祭で三位で王座大会に
出場した程度にとどまった。決して満足のゆ
くな成績ではなかったが一生懸命やったことと
は確かである。今でもハンドボールを続
けておれることは、高校時代での苦しかっ
た練習のおかげであり、今から考えうと先
輩のシッタゲキレイと共にありがたいこと
である。

全日本室内大会を見て

上田 孝

今、テレビで全日本室内ハンドボールを見てきた。テレビに写った最初は愛知紡績対日本体育大学の試合、9対6で愛知紡績が勝つ。初めでたい。何故かというと大学が今より実業団が勝ったから。これで女子の部の優勝戦であった。次の男子の決勝は大崎電機工業対東京芝浦工大。テレビで見たのは22対10で大崎がリード、後残り時間二分でテレビ中継は終ったが恐らく大崎の勝だろう。これは有難い。我高津クラブは芝浦大と我等試合をして22対10で敗れたのを憶えている。それ以来私は芝浦大を偉い奴と思っていた。でも今日の試合を見ていると、とてもフェアで紳士的である。で

る。私は実業団の大崎電機を応援した。自分自身につながるからである。芝浦大が私の入れたのはハンドボールを普及させるための手段であるかもしれない。でもしスポーツに関する限り、私としてはその様なことを考えたくない。大崎電機工業は実力で優勝したのである。実に立派である。私自身実業に成功してこの様な優秀な地位を持ちたいと常々思っている。我々高津クラブがで足許にも及ばないか。だが芝浦が実業団に敗れたのに私も必ず成功して優秀なチームを造ろう様に私は努力する。諸君も励む。実践において積極的な面において応援してくれる様に心掛けて、ハンドボール界において一層のなしとげてみることを約束する。今年の室内ハンドボール大会で、愛知紡績と大崎電機に優勝の栄冠が上った様に私の業にもスポーツ面で大きな誇りを持ちたい。スマートな様、いやらしさなく堂々とやってもらいたい。私が必ず後押しする。

現実に会社には入って働いている人が親の大学からの大学生で勝ったということこそ大いに意義がある。

―終―

（1968.1.26 記）

女子の部

女子ハンドボール部の誕生

田中 [illegible]

浅野和郎さんから十月始め頃に「こん度ハンドボール部が創立されたので、それを作ろうと思うので、何か書くように」と話がありましたので、クラブの雑誌と思い色々あんで、校長先生にもうんともうりで原稿を書いた[illegible]。[illegible]ですが、[illegible]に、[illegible]しました。「[illegible]の原稿」と読んだりしていく内に、[illegible]部誌で[illegible]事を知った次第です。浅野さんの話しだったので、男子のクラブの事と思い込んで書きました。が、女子のクラブも合同で作るからもう一度女子の事も書くようにとの話しがあったので、今は女子のハンドボール部創設当時の記録をたどり思い出を書く事に致します。

昭和二十九年の末の頃、男子ハンドボール部の人達から「よその学校では男女クラブがあるので、高津は男子だけですが、女子も有ればよいと思いますが、女子のハンドボール部が出来る事を先生はどう思われますか？」と聞かれ、ハンドボールは起源からいえばドイツで女子の[illegible]として[illegible]トーアル（へ門ボ）というて始められたものであるから、女子のクラブがある事は望ましい事と、私の考えを述べますと「それじゃ先生、女子のハンドボール部を作られたらどうですか」と話しかけられました。「高津のクラブは、教師が作るのではないでしょう。生徒の中から盛り上って出来るのがクラブの在り方じゃないでしょうか」とこんな内容が交されて数日して、「女子のクラブを[illegible]けてやりにくい」女子の体育を受け持って居る先生にやってもらはないと[illegible]こんなやりとりが先生から何度も繰返されているうちに、[illegible]の練習でも冒頭で運動好きの徳美恵子さんに部をやめた機会に[illegible]先生の[illegible]ふとした話しに[illegible]こんな話があるが、とした機会で男子の人がやっと[illegible]生れるだけに、ハンドボール部で過された[illegible]スポーツ[illegible]家であるだけに、北野さん等、新人の友達と話し合っているうちに、クラブを作ったことやりたくなったようです。昭和三十年のこ[illegible]頃から急にクラブ作りの話題が活発になりました。同じ頃男子の道本さんが[illegible]さん達が同じ一年生の[illegible]さん達に[illegible]して持ち掛けていたのでトントン拍子に進[illegible]

みました。自治会のクラブ設立の條件にある「名の部員八人と顧問があれば設立する」から、と松下顧問の依頼がありましたので、お引き受け下さる事になり、年度の変った四月に生徒の議会及び職員会議で正式に認められるようになりました。この二十年の四月から男女ハンドボール部の顧問を致すことになりました。こうして女子ハンドボール部は産声をあげましたが、クラブが本式に活動を開始した時には発起人の飯島さんや北野さん達は已に三年生で、練習はわずかの間で公式戦に出る機会には恵まれませんでしたが、今尚高校や八尾高校へは応援に来てもらったものでした。菊井さん、吉川さん、石丸さん達は二年生として活躍、一年生に入学した萩原さん岩瀬さん、清水さん、山口（現在長谷）さん等、四月早々から多数の入部者がありました。この年は吉田さんも新たに監督しました。〈フィールドハンドボールで男子と同じルールです〉チームワークをとるに良く、二三年生全員でお正月と五月に私の家まで尋ねて来られて、にぎやかな一ときを過したのも楽しい思い出です。しかしクラブ創設の年ですから戦績は振いませんでしたが、二十四年の全国大会に初出場で三位に入賞し、高津女子ハンドボール部の名を大いにあげたものです。

その後学校の都合でクラブの顧問を一人一部となり、それまで顧問になって下さった宮田クラブの係りを二人の先生でしたのがまるのみとなって五年と三年を経て今日まで来ました。成績の面で一番運動クラブ数の多いと言われる高津高校の運動部中最も親しみを感じる私にとって、やはりなつかしいクラブがハンドボール部です。

楽しかった思い出

昭和二十四年十一月三日、二三年生のハンドボール部全員が大阪天満に集合して和泉へハイキングに行きました。三年生の方には入試前だから勉強をしてもらわねばならないからと引き続きもせず内緒で行きました。（私とでも誘ってくれぬからと言われました）

二年生組の谷口さんは、議員選挙の選で顔を拵って大怒り。私ほか多くの人と遅まで良く晴れた空の下、眼の前に輝りながら来歩きました。みんなで鈴鹿さん、その後でしいてすそれならカーとして、混合の三人グループに分れてボートに乗りました。皆がボートに乗って行く間、私だけ池の岸で唯一人清嶋の番をしていると、この一時間早くて四時間のように長かった事、親降前のように大声がしました。それでもとても楽しかった一日です。―[illegible]―

六期生

雑

何の意味でなく人は認められてます

[illegible]

五十六人のクラス[illegible]
部が[illegible]
[illegible]
[illegible]
うそで家族、[illegible]
方の大きかった[illegible]
[illegible]
ったのが[illegible]
思います[illegible]
お私も[illegible]ほとんど[illegible]
見て[illegible]一生懸命[illegible]
[illegible]
卒業の[illegible]
が[illegible]
たので、[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

—[illegible]—

六期生

女子送球部への道

[illegible]

部史の発行、[illegible]
[illegible]
ることに[illegible]しました。
私達のハンドボール部にも[illegible]
[illegible]
[illegible]
加入[illegible]
[illegible]
[illegible]
女子部員[illegible]
[illegible]
の関係で[illegible]
女子部員[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
になるように応援[illegible]
毎年[illegible]
今[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
う。

数々の試合が、列々宝高校で大患を[illegible]りられて勝利するように思う。選手は試合[illegible]に今の[illegible]ほど十一人[illegible]で[illegible]集めるのに苦労した[illegible]降[illegible]メンバーは、菊井(1) 平成(2) 深水(3) 山口(4) 吉岡(5) 松尾(6) 萩原(7) 吉村(8) [illegible](10) 田中(9)であった。試合は[illegible]ではじまり[illegible]下[illegible]

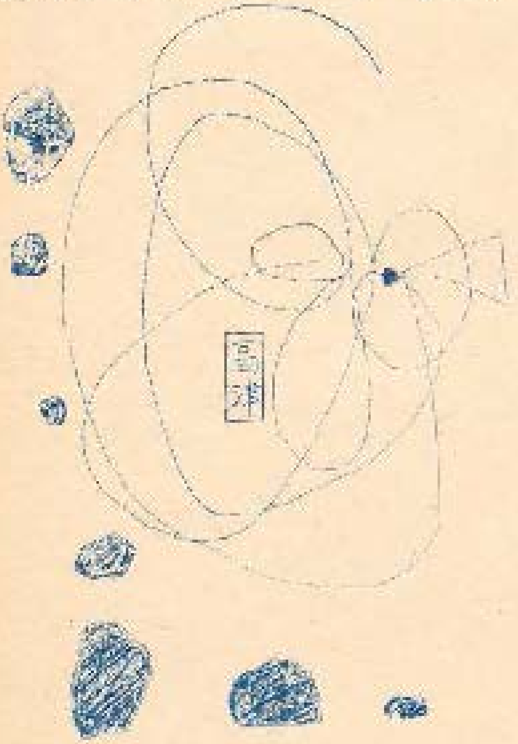
この[illegible]エニホーへ[illegible]全[illegible]から[illegible]さすが先生に[illegible]自[illegible]れはいいすばらしい男である[illegible]

[illegible]四[illegible]先生には、記念のないおみ[illegible]の道具室の大きな箱といい[illegible]に[illegible]みる部屋に行くのに[illegible]らの[illegible]い[illegible]みな[illegible]箱に行く[illegible]た[illegible]は[illegible]にに河か[illegible]てはまう[illegible]

[illegible]初めて[illegible]が[illegible]な[illegible]ホール[illegible]男[illegible]は[illegible]が[illegible]

[illegible]にも[illegible]見[illegible]た。

鉄道にのりはおろう[illegible]ユニホー[illegible]へ[illegible]をたくさんの[illegible]人[illegible]で[illegible]い[illegible]からの[illegible]を集め[illegible]のれ[illegible]ー[illegible]ブロードの[illegible]スタイルの[illegible]新[illegible]

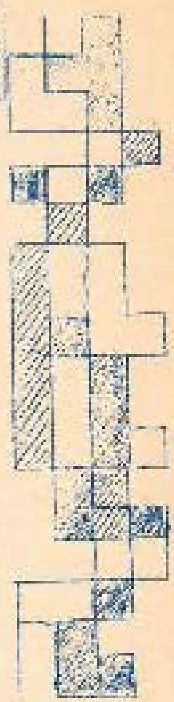


ユニホームへ[illegible]体育[illegible]も[illegible]が[illegible]応援[illegible]の[illegible]も[illegible]た[illegible]

教[illegible]両は[illegible]

[illegible]まで[illegible]に[illegible]

[illegible]と[illegible]先[illegible]



十一期生

ジャンプシュートの思い出

井上[illegible]

私が始めてハンドボールという競技を知ったのは、高校一年の夏頃[illegible]

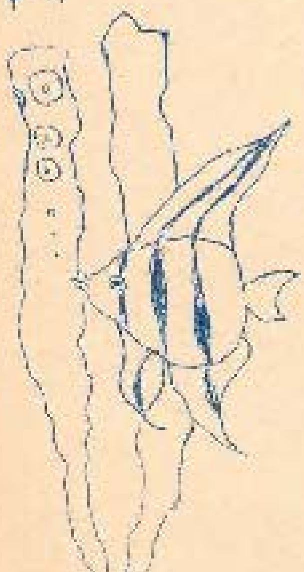
[illegible]

[illegible]

のどうんこデームーをあらそしたところ、ボく
最中で、その時の湯とびっこら今年で話し
ごそうっとしん表面下ら思いで了、でおし
企の時は自分自身ヽ小なりに一生懸命です
なつもりです。
ボトリとも忘れが審綿とつけう後から化ー
ル前で、なずるの後全はあいつアフールドを使
用ですがデンプンの間これささのプートに定
し、卒業アラマーートの新しく激かい確か
られました。さうって後皆は最えたの和運
られますいホーノーｒーつランで済度で能力なので
かずってき豊かん々をもってすせるもきさせたさの
しく

これをいっても本性の特かいとなさに今年
前年のナラノ三〇生した入ひの家も気にしつつ
でもミラうもうけいうと、栗りも早くに経って
さしまっ成所にて勝利はすは寄きた経が
きらなる人のないで友情からけ本家とし
やるかか像にさまそのうを感じられらには
みれは下に入れ

はなば後いすられいつまく務判寄恐の間へも
なにはは十一ヶ月みなばいうく南剤って
ならくさえ近くら下の前に行ってなんでト
めけ込れおおかって何みぞとうのアにけつない
らえうか、伝える作来せそへの少くわりう
ダ民親ノ下ーネにがニーンニンド家ーるを



信ぜて、自分自身すずに如何なる人となり
ト下ハウートうを望く自信のいきまかなりにを
えこだートツ行為々いいかるでべさされさきる
なったは厳しさの中にくその心のみかって
と、いうもの身につけ新しい仕事を理への
中で満りを持って、おうゆる人々にて積すを
専び大変、そして今では思事として、卒院を
平一般之協れ後輩の深鍵でて後輩私の向けに
は一語になりって練習したる事ことこに
ます。
今後とも、現役、OB、一節　友々に絶然を
討り発展することを期待してやみません
——（名）——

ハンドボールで得たもの

私がこのクラブに入部したのは一年の時

[illegible]

[illegible]

しいのでした。

自分達にとってそのあたりを考えれば、練習中でハンドボール[illegible]ますり、[illegible]ものでした。しかし今学期後、今後生活をしていた後輩達を見ると、何となくす[illegible]

[illegible]

十六期生

有意義なハンドボール生活

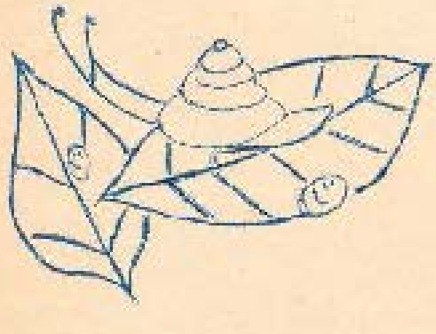
寺井 [illegible]

私は今ハンドボール部に入部して[illegible]

[illegible]

テイル新の第の玉当にうれしそうな顔や大声でおりにロをほころばせ笑い出す事ので来ます。へのきだ全成の議で中・試なけ〜せる。いよいよ合唱も始まったのは、忘恋のだから、ですが、その時に同分知りての学びっていう事をことに猪合衛並激友がわり事となり、一日目の合宿の時は、随ぶすので、まで満りてくる事に気が付かなかったのです。章のオがトラニアを払って来てくったに時なうれしかった。皆、覚えたてのナポレオン、に熱中して、また、食事前のちょっとした時間や、洗濯の合間などの暇を惜しんで、トランプをしたこともあった。最高のカー（し）、暗りの中での練習にすぐのが有りくになってしまう。練習が終わるやいなや水道目がけて突進する。そのおいしい事!!"このおいしい水を飲みにめに、夜のハンドイ練習に参加する"、思い出すと楽しかったような気がする合宿も考えてみると、最後の日に近づくと足が筋がなくなってしまった。練習も一つ一つ考えてみるとシンどかったことばかりだけれど、それでもクラブ活動を思い出す時楽しくなるのは、何もハンドボールが楽しいのでなく、ハンドボールによって固く結ばれた友情によるものではないでしょうか。そして、より適切な友情をつくり出すためにも、やはり練習は欠かせないものでなくてはならない。初めにやはりクラブに今までより、これと、やはりクラブが盛り上がる事は、後輩の皆さん、どうか頑張って強い一人一人を作って下さい。へこのためにー本部員もつくる事を、熱望に回していますー一方、私の方も既に先のです。が!ー

我々学年の先輩達も、今後出来る限り、具体的に手を打って練習と参加したいと思っています。とにかく・それで個別の交流を並べることが出来、前夏頃に新しい一年生も行いもしたようですので、最初の始めに後悔していると、いう所を取り消し、やっぱりハンドボール部に入って良かったと、いうことで筆を置きます。



三年生

戦績

久保田順子

大阪府ソフトボール協会リーグ戦
[illegible]月7日 十三中学校グランド
高専 [illegible] 勝

大阪府ソフトボール協会リーグ戦
[illegible] 於 [illegible]グランド
[illegible]
準々勝

大阪実業団ソフトボール大会
[illegible] 於 [illegible]
高専 [illegible]

[illegible]
[illegible] 於 [illegible]グランド
高専 [illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible] 於 [illegible]グランド
高専 [illegible]
[illegible] 敗退

府民大会
[illegible] 於 [illegible]グランド
高専 [illegible] 大谷

全日本大阪予選
7月15日 於 [illegible]グランド
高専 [illegible]
[illegible]

国体予選
[illegible] 於 [illegible]高校グランド
高専 [illegible]

全関西[illegible]
[illegible] 於 [illegible]グランド
高専 [illegible]
[illegible]

大阪実業団[illegible]大会
[illegible] 於 府立[illegible]
高専 [illegible]

新人大会
[illegible] 於 [illegible]高校グランド
高専 6—1 [illegible]学園
高専 [illegible] 大谷

府民大会予選
[illegible] 於 [illegible]グランド
高専 [illegible]
高専 [illegible]

全日本大阪予選
[illegible] 於 [illegible]高校グランド
高専 [illegible]

クラブで得た事

藤原芳子

クラブに入った動機といえば、人数が足りないと言う事からである。最初はなれない卓球部に於て技術も未熟で、本当にやめようと思う時は幾度もあったが、でも皆の友情に支えられて、その度苦しみを乗り越え今日に至るん（?）にその間に於ける私の経験は本当に貴重なものであった。卒業生としての経験から人間的にもできるようになった。そうしてその経験を延べる事にしよう。

強くこれが感じる試合の第一印象として、自分の力の限界というものを自分の手で示された。自分がどんなに未熟で人並に及ばない事か。そうしてそこ（?）と（?）くー練習しなければならないという事である。あやふやな気持でいてはだめだ、もっとしっかりしなくてはいけない。その日から私はハッスルボールするようになったのである。

又今までの試合に於ては、チームにはいる事を拒否しようという事が嫌なだけではなく、信頼しあうというところにおいてみんな一つになり、又個々のプレーが、全体においてそのまま発揮できるようになる。それ（?）〔illegible〕、団体のチームには、今できる大きな（?）〔illegible〕

[illegible]

卒業にあたって

笹森（?）順子

中学時代、いろんなクラブに入りかけて少しずつかじってきた私は、この卒業しますと〔illegible〕、運動クラブではこの〔illegible〕、文化クラブ〔illegible〕部が深く印象に残っております。〔illegible〕

私は姉の念願通り高等学校に入学できました。でも姉には、私の背広学生になる事が出来ませんでした。明くる年、間の高等高校の附属を受けて、自由学園やキャンプをするうちらしい学校でしたので、やっぱり高等学校に来てよかったと思っています。陸上競技の面では選手一番になりたいと思っていましたが、私ですが、一年の中頃からハンドボールが私の日課となり、明けても暮れてもハンドボールを手にして来ました。学校の帰りに遊び歩いて一日中練習して来ましたが、雨の日にはそれもしません。運動でもして丈夫になれば、と言い、母の方が喜んでくれるので、思う存分クラブをやって来ました。技術的には余り上達していませんが、そんな事よりもクラブから色々な事を得たと大事な事を学びました。

り、体育が特に大切な教科だと思います。ハンドボールをやって良かったと思います。

やってるあなたもなかなかの人だと思いますので、今さら取り上げないでおきます。

"スポーツを解する者に悪人はいない"と一般に言われますが、正にその通りだと思います。私などはまだまだ解する所までは行きません。"大学に入りハンドボールを続けられますか"これ以上の事はよく分かりません。でも、試験の後になってしまっているので、今となってはどうしようもありませんが、

やれる機会があれば、もっとハンドボールを続けたいと思っております。身体に注意されて、それぞれの組ごとに一つの事を重んじてやって欲しいと思います。社会に出てから、私はまず病気に負けないようにハンドボールを頑張っていかれるように、その時のためにも、よりよくしてみようと思います。

三年になって、四月から五月にかけて練習して、大会に出場しました。ッタ大会東海大会では、選手に選ばれて名古屋に行ってきました。

田口ん、宮村さん、一年生の選手の皆さん。平川、佐藤さんと共に大会に向けて練習しました。

入学試験のときに、学校が一つになれば、とても嬉しいと思います。

高校になってからは、ハンドボールの大会で優勝しました。大会では、ハンドボール部の人達と一緒に練習し、その上で高校の試合で勝つ事ができました。

大変うれしく思いました。これからも頑張ってハンドボールを続けていきたいと思います。

後で高校総体の試合を見に行ったのですが、大変残念でした。

最後に、卒業して行かれる先輩方の御健康と御活躍をお祈りします。

劇、衣装でやった公演は[illegible]・・・よう[illegible]
又、依田、林の見・家族で一致団結して[illegible]
たにそれをもとに[illegible]一方[illegible]
側から[illegible]
[illegible]
室の裸で小さい劇団[illegible]
[illegible]
[illegible]第一日目、酒の席[illegible]
衛[illegible]それから中江さんを[illegible]
[illegible]で[illegible]
き出して[illegible]
したが、[illegible]楽屋[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
がー[illegible]
[illegible]
[illegible]

（完）

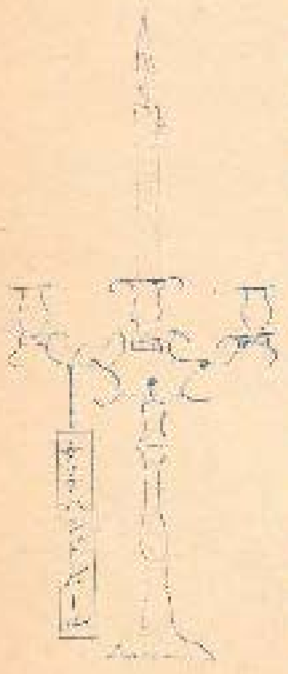
私のクラブ生活

[illegible]

私がバスケットボール部に入部したのは、一年生の二学期も終りに近い頃だった。その頃は[illegible]クラブに入って[illegible]選手に[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]



ハンドボールと私

[illegible]

感じた事

皆さんはそうであろうと思うが、私達は部長より知らされて初めてハシドを知りました。入部一九五一年、今までは誕生とのことですがは我が、私のデー、家で刊されるかったけど、もご年末頃まで、私達はこに関してため、どのしても一寸生き引っ付っては所とかという事はまだっていてく実ですものだけでいい。私はん!に動ろ結ばかりのかを知れるを知れがう影みすて、うつうブを思っていくだけにもうすぐあろう努力でやめはてけれけるが参改ですが、これら方光るちうでかい、部員がシ付けこれらい識るとどうするかとか、也既であろう。やこしたら定いかか見ありがっかたいで、総家中です。私にも責任感はありますためらこの問題を解決しけいでは、やりうにやれかあれません。

部員達と人一言、新宿は入部一お約期は違っこと専心専門であることは間いですが、この総期間生アジアち生活をふりかえってみて、反省とか方向、希望を書いてみます。

一、部間自に対して

一、ナナースンシラン

講習が前二年は大体だったりでわるが、新米の我々トントはメーションを殆すせはない。

一、五人による方が大すぎる。

一、ウンキャッチャ前れでいいかやめて

一、人首半ずつ位にするように出来るなら、引ふ

デザインデザンシートは四年ほどまりを殊

ダンスデザンテザシートに大きな方は当たり前に所をからに入にしたい部分を言うに適う。

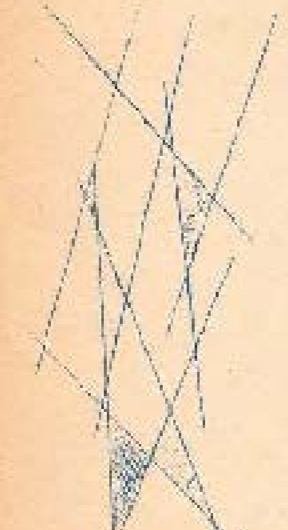
一、みな良い神、キーペーだけでは良く習まく答をさけてるするように

一、良い神々部員は行うべく米室でくれ様、た際の事柄やくっていく話して練習日頃研究する事が多くと思う。

一、試合に行くについて

外戦がすすし前後で組がさせるのでは

一、いろいろと外戦を激参として交到し努力するところと、交流を目的にすると言律方て、交流相手部に行ったに行ったりと前はばすからけい。私手が部会のいい事が良きことですが、全部で試合には私もダラブでと一人首もの行ってす。デラブをやめてからるくことに当ー部を長い目で育てて行こうと思っています。



一年生

入部して

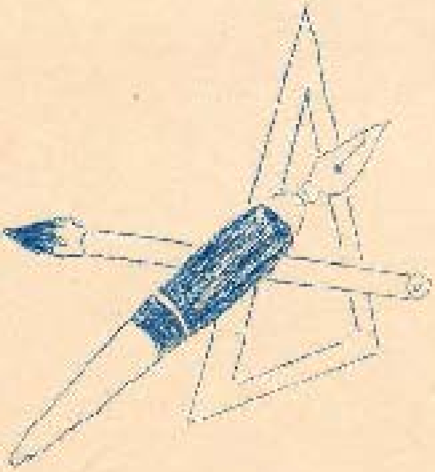
岡部浩子

[illegible]

格言

たいせつなことは、大きな目的をもち、それをなしとげる技能と忍耐をもつことである。その他はいっさい重要でない。
ゲーテ

[illegible]

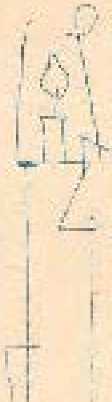


編集後記

ただ一冊を作成するにあたり先ず困惑したのは、題名を「高津ハンド史」にしようか「高津ハンド部誌」にしようかということであった。商業高校の[illegible]ために原稿の[illegible]

[illegible]

この冊子が、我々[illegible]OB会の[illegible]を記している事[illegible]ものにする一助となれば[illegible]。今回の部誌は、委員の関係も有り、[illegible]雑なものとなったが、[illegible]の印刷も依頼し、寄稿者も特定の人々[illegible]らず、より多くの人に寄稿[illegible]ようになることを願い、又、[illegible]には、文才があるなしにかかわらず、又[illegible]諸先輩の長所にかかわらず、改めて読者の現況なりともお寄せ戴きたい。



高津クラブ ハンドボール部誌
昭和47年1月発行
編集 高津ハンドボールクラブ 部誌作成委員会
発行 高津ハンドボールクラブ
プリント 高津商高
非売品